



下関市立大学 News & Topics

遠隔授業(オンライン授業)の取り組みについて

教授(教務委員長) 関野 秀明

世界的な感染症拡大に伴い、下関市立大学も5月18日より遠隔授業(オンライン授業)にて今年度春学期授業を開講致しました。以下にその取り組みの経過と教訓を報告します。

1. 4月1日、教務委員会所属の教職員のちより「遠隔授業の研究を至急進める必要がある」旨、問題提起がありました。ここでは「教務委員長はじめ不慣れな教職員が多いからこそ、できるだけ早く検討を始め、現場から議論を積み重ねる必要があること」を確認しました。この原則の確認は、のちの準備作業において大きな意味を持ちました。

2. 4月6日、教務委員会、ネットワークシステム運営委員会は、「第1回オンライン授業合同検討部会」を開催しました。ここでは2つの課題を



遠隔授業開始直後の様子(佐藤裕哉教授)

確認しました。①最初の作業は「シラバス改訂」であること。これは「遠隔授業=会議室・授業支援アプリの使いこなし」と思い込んでいた私にとって、重大な気づきでした。この「シラバス改訂」は、学生と教員が「遠隔授業の具体的方法」「15回分の明確な学習内容」を共有する上で大変役に立ちました。②本学のネットワーク環境で「できること」の明確化。ここで「語学授業とゼミは会議室アプリによる同時双方向型」「大講義はG-suite等授業支援アプリによるオンデマンド型(随時取り出して学習)」を基本としました。この決定は、ネットワークシステム運営委員会の助言「安全な遠隔授業はラジオ講座のイメージで(動画中継は最小に)」によるもので、このおかげで、現在までサーバー・ダウンもなく、無事開講できています。

3. 4月20日、「遠隔授業講習会」を開催しました。ここでは会議室アプリZoomの使い方講習と共に2つの課題を確認しました。

①なぜ遠隔授業をやるのか目的を明確にすること。それは対面授業に比べ、質、効率共に及ばないとしても、学生の学習権を緊急避難的に最大限保障しなければならないため。②不足する遠隔授業用機材(カメラ、マイク等)確保のため、例外的に教員研究費の精算払い方式(教員が個々に現金購入、後に領収書で研究費から精算)を導入する必要があること。ここでは、②のような現場の要望がその後迅速に実現したことで、①の遠隔授業準備が進捗したと思います。

4. 4月28日、第2回オンライン授業合同検討部会は、3つの最終準備を確認しました。①5月18日遠隔授業開始に備え、11日より試行期間を設定した。②TA(教育技術補助員)を2週間集中投入すること。③遠隔授業相談窓口は担当者の過重負担を避けつつ機能させるためGoogle classroomの掲示板機能を使うこと。この①②は連日、準備に取り組んだ教務委員会教職員の提案でした。おかげで学生も教員も、トラブルに分散対処することができ、安心して遠隔授業に移行できました。③はネットワークシステム運営委員会からの提案です。この電子掲示板での問い合わせが著作権問題の正しい処理、「授業目的公衆送信補償金制度」への早期届出につながりました。

5. わずか7週間の準備作業でしたが、私なりに大きな教訓を得ました。それは、現場の意見を聞き助けてもらう必要があること、より丁寧に聞けば、よりたくさん助けてもらえるということでした。この教訓を忘れぬよう、引き続き、教務の仕事に取り組みたいと思います。



オンライン授業合同検討部会(関野秀明教授)

新任挨拶

これからの地域経済に必要な 産官民協働活動

教授 竹内 裕二
(地域活性化)



本年度より経済学科に着任しました竹内裕二と申します。本学では、主に地域産業論、地域論を担当します。

専門は、地域活性化を中心にした「まちづくり学」「社会システム学」「地域経営論」に関する研究です。具体的には、これらの学問分野を通じて、産官民協働活動を持続的かつ長期間に渡って運営・維持させていくためのメカニズムについて社会実験を基に解明していく研究を行っています。

例えば、近年の日本社会は、少子高齢化に伴う人口減少により社会資本整備に限界が生じようとしています。この社会問題を解決するための策を具体的な社会実験によって解明しようと試みています。この実験の成果は、今後明らかになりますが、この産官民協働による問題解決によって、社会経済が衰退する速度を緩めるお手伝いに貢献できればと考えています。

このような様々な研究を常に教育現場となる講義の中に反映しながら、学生自身が社会の仕組みと現実、これからの社会のあり方などについて考え、行動するための教育に寄与できればと願っています。何卒、よろしくお願いいたします。

科学的根拠に基づいた、 健康づくり実践

准教授 松崎 守利
(健康運動学)



本年度4月より、健康科学・スポーツの担当教員として着任いたしました松崎守利と申します。専門は健康教育学、運動生理学、スポーツ医学、柔道(五段)です。大学院を修了してからの約18年間は、福岡県で健康づくりのトレーナーとして活動して参りました。メタボリックシンドロームなどの予防と改善を中心に、ダイエット指導やアスリートへのトレーニング指導なども行ってきました。そのような経験を経て、平成22年から大学の専任教員に転身しました。

現在は、「大学生が健康的な生活を送るための支援方法」や「柔道競技者における股関節の柔軟性が競技力にどう関係しているか」などの研究を進めています。

今年度は、外出自粛を強いられたなかでのスタートとなり、皆さんの食生活の乱れや運動不足、精神的なストレスなどが心配です。今後規制が解除されれば、これまでの経験を活かして、皆さんの健康づくりや楽しく充実したキャンパスライフを送るお手伝いできればと思っています。皆さんに会えるのを心待ちにしています。

個人と社会のはざままで 悩み続けること

講師 大野 悠介
(公法学)



本年度より着任いたしました大野悠介と申します。本学では、主に憲法および行政法を担当いたします。

研究では、主に2つの問題に取り組んでいます。1つはモノやヒトの行き交う流通と国家との関係、経済秩序と国家の関係の問題です。そして、最近関心を持っている2つ目が、ルールに挑戦する「strange」な個人の問題です。

日本国憲法は様々な人権を定めていますが、その根底には「個人の尊重」があると言われます。たとえ周囲から「strange」だと思われるような個性、価値観、意見等であっても大切にすること、これが肝でしょう。他方で、人間は孤独では生きていけず、個人を超えた経済や社会といったものが必要であること、これを否定するのは難しい。個人を尊重しながら経済や社会もうまく回していくにはどうすればいいか、これが憲法・行政法の興味深い悩みどころになってきます。

教育面では、実際の裁判例を通して、この悩みと向き合い解決しようとする思考の手がかりを提供できればと思っています。正解のない問題ですが、一緒に悩んでいきましょう。よろしくお願いいたします。

下関から アジアと世界に羽ばたこう

特任教員 馬 叢慧
(日中文化比較)



下関市立大学で4月より中国語の特任教員を務めます、馬叢慧(ま そうけい)です。

ここ下関は、関門海峡の素晴らしい景観と豊かな自然に恵まれ、地理的にも歴史的にも日本と東アジアの玄関口として有名な都市です。私も中国に住んでいた頃から知っている地名でした。

私は、これまで中国語教育や日本と中国の文化比較などの講義を担当してきましたが、個人的な研究では日本の茶文化や江戸時代の文人などをテーマにしてきました。ここ下関や関門地区は文化的な面でも興味深い地域と言えます。

本学には、日本やアジアの各地から学生が集まっていますが、こうした国際性やダイバーシティ(多様性)からの「共創」こそが下関らしさではないかと思っています。

今年は遠隔授業からのスタートとなりましたが、語学学習の機会を大切にしながら、将来はアジア、さらには世界に羽ばたかことのできる国際人が、一人でも多く育ってくれることを期待しております。

皆様、どうぞよろしくお願いいたします。

新任挨拶

研究と教育の抱負

特任教員 任 清梅
(中日古典比較文学)



初めまして、青島大学からまいりました中国語特任教員の任清梅(れんちんめい)です。これから一年間にわたり、下関市立大学で中国語実習と中国語を担当します。

研究分野は中日古典比較文学です。主に江戸時代に発生した読本と中国の白話文学との比較を中心に研究をしています。読本は最初中国の短編白話小説集『三言』、『二拍』などの影響を受けてきた文学です。後に中国の明清時代の章回体小説(長編小説)の影響を受け、後期読本もできました。その中で、一番よく知られているのは曲亭馬琴の『南総里見八犬伝』でしょう。『八犬伝』の中に、中国の『水滸伝』をはじめ、いろいろな長編小説の趣向が仕込まれています。これらを解明していくのがとても面白いです。

2016年から2017年までの一年間、東京にある北京語言大学東京校に勤めました。中国語教育の最高峰というべき北京語言大学の教授法を身につけました。この一年間、学生の皆さんと一緒に頑張っていき、みなさんの中国語の実力向上に力を発揮できたら幸いと思います。

懸賞論文で準賞を受賞いたしました

経済学科4年 榎内 誠吾
(奈良県立橿原高等学校出身)

商工総研主催の第33回中小企業懸賞論文において、榎内誠吾・仲眞紗羽・波辺啓太の連名で執筆した論文「地方創生と事業性評価融資の新たな展開—サーチファンドの導入と課題—」が金融部門で準賞に選ばれました。

この論文では事業性評価融資において、地方銀行が地域経済の活性化に携わるには、地方創生に意欲がある人材の増加、そのような人々と地域企業を結ぶ事業モデルの確立が重要と論じました。事例として、山口FGによる国内初のサーチファンドを取り上げ、海外の取り組みを基に地方創生の展望に加え、課題を抱える事業を担いたいと考える若手経営者の確保等を掲げ、地域企業と若手経営者を繋ぐ人材マッチングなどをより行うことが大切だと分析しました。

論文執筆にあたり、テーマ・方向性の決定に試行錯誤しましたが、グループで協力し、他にはないものを意識し調査、分析、執筆を行いました。今回の受賞は、私達が所属する森祐司ゼミでの森先生からのご指導、またゼミのメンバーから頂いた意見、調査にご協力して頂いた山口銀行の方々のお陰だと感じており、心から感謝しています。



自著を語る①

連載企画

『カントの世界市民主義』

晃洋書房、A5判・390頁、2020年2月

教授 西田 雅弘

「世界市民」をカギ概念にしたカント哲学の研究書です。現在の「国際連合United Nations」に先立つ「国際連盟League of Nations」(1920年発足)が、カントの『永遠平和のために』(1795年)に由来することは有名です。しかし、平和論に関するカント研究はまだ十分ではありません。本書は、これまで未解明だったカント同時代の社会的背景や、彼の平和論の理論的構造を明らかにしています。

本書をとりまとめるにあたって下敷きになった論文のほとんどは、私が下関市立大学に着任して以降、定年に近くなるまでのおよそ30年の間に執筆したものです。研究の幅を広げることを否定はしませんが、逆に1つのことだけを生涯継続して深めていくことが研究者としていっそう意義のあることだと考えます。

その点で、やりたい研究をやりたいようにやらせていただいた下関市立大学に感謝します。加えて、本書の出版に際して下関市立大学の出版助成を受けました。生涯に1冊、渾身の単著。下関市立大学は研究者のこの思いを支えてくれる大学でした。



自著を語る②

連載企画

『アメリカ病院原価計算』

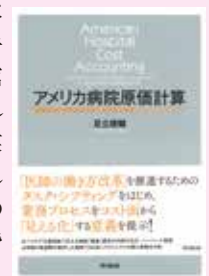
同文館出版、A5判・348頁、2019年9月

准教授 足立 俊輔

昨年9月に、『アメリカ病院原価計算—価値重視の病院経営に資する時間主導型コストイング・システム—』(同文館出版)を出版いたしました。本書は、アメリカ病院原価計算の利用実態や導入効果を体系的に解説することを目的にして、オバマケアを運用面で支える病院「価値」概念の内実のほか、ハーバード・ビジネス・スクールが着手した病院TDABCプロジェクトを中心に分析整理したものです。また、本書は今年5月に、「第48回日本公認会計士協会学術賞(MCS賞)」を頂くことができました。

コロナウイルスの関係で医療提供体制のあり方が問われている現状を鑑みますと、今後は医療提供体制を対象にした会計研究にも取り組みたいと考えている次第です。

これは謝辞で言及できなかったことなのですが、本書の校正作業の大半は、本学図書館で行いました。図書館で勉強している学生から時折見られることで、緊張感を保ちつつ執筆作業を行ったことが出版に繋がったと感じています。この場を借りて、本学の図書館スタッフをはじめ、教職員の皆様に感謝を申し上げます。



附属リカレント教育センター開講

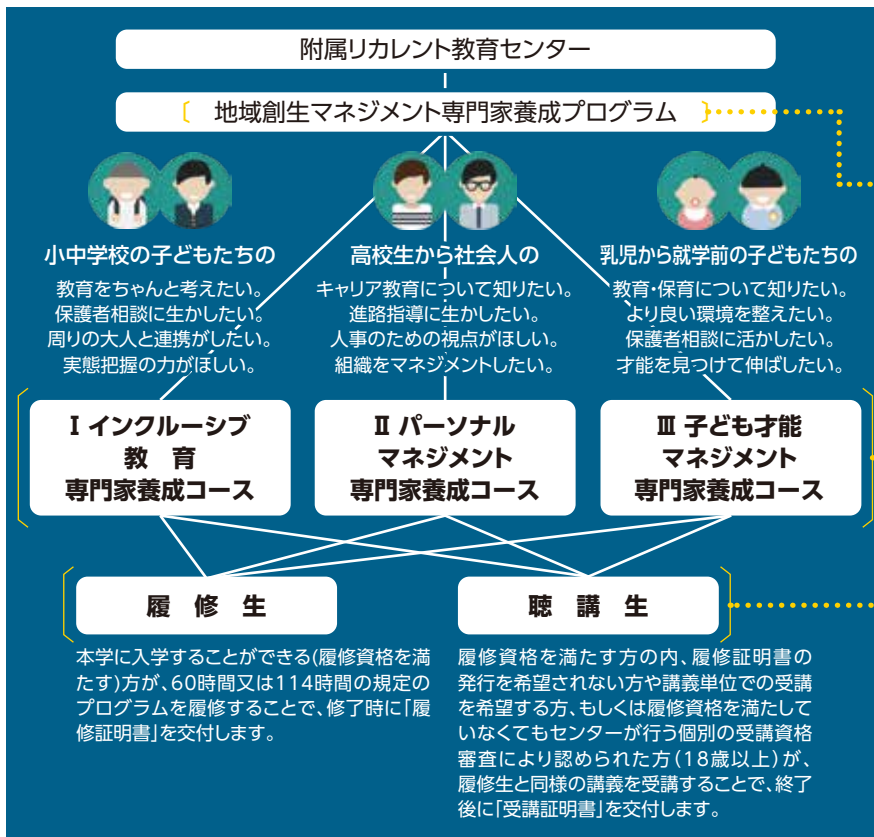
「人生100年時代」をみなさんはどのように考えていますか？

80歳で長寿の時代から、いまや80歳から先の「20年」を見据える時代になり、社会人の学び直しとキャリアアップに対して、「リカレント教育」への注目度がどんどんと高まっています。また、少子高齢化や人材の大都市集中化によって地方都市が抱える課題解決に、一石を投じる取り組みが「リカレント教育」です。



下関市立大学は、下関市の公立大学として豊かな地域社会創生の一翼を担っています。

そこで、地域の課題を市民のみなさんとともに考えて解決していくために、大学が蓄えてきた英知を広く市民に還元する場として『附属リカレント教育センター』を設置しました。本学の理念である“地域社会の知的センターとして地域に根ざした教育と研究”を実現し、地域に眠る人材の発掘及び育成と地域の外から優秀な人材を呼び込むことの両輪をもって、働き盛りの社会人を中心とした地域コミュニティの活性化を目的とします。



履修証明プログラム

社会人等を対象に体系的に編成した学習プログラムを開講し、その修了者に対して学校教育法第105条に基づく履修証明書を交付します。履修証明書は、履歴書に記載できる学歴として認められたものです。ただし、本学のプログラムでは単位の認定はありません。

- 1 コースが選べる**

本学が培ってきた経済分野、特に経営学的観点を生かして、「インクルーシブ教育」、「キャリア教育・キャリアアップ」、「乳幼児教育」の観点で3つの専門家養成コースを開講しました。
- 2 受講方法が選べる**

本学の非正規生として規定のプログラムを履修する履修生と、興味・関心のある講義だけ受講できる聴講生の2つの受講区分があります。

各コースやプログラムの受講方法等の詳細につきましては、本学公式サイトをご覧ください。



2020年4月に新設され、同年6月に3つの専門家養成コースが無事に開講しました。

第1期生となる受講生(履修生及び聴講生)には、沖縄県から北海道まで延べ79名を迎え、遠隔授業で日本全国と繋がっています。初日の<III子ども才能マネジメント>では、「保育園のクラス担任を持たせてもらったので、特別な支援が必要な子どもが対象というわけでもなく、すべての子どもにとって、何が足りないか、何を伸ばしたら良いかというような見取りに役に立つことをとても期待しています。」という受講生からの期待の声も聞かれました。新型コロナウイルスに負けず、この機会に学び直しを考えられたという方々、遠隔授業だからこそ受講ができたという方々の思いをエネルギーに、講師陣も奮闘してまいります！

2020年度 第1期生 (2020年6月1日現在)

I インクルーシブ教育専門家養成コース	26名
II パーソナルマネジメント専門家養成コース	7名
III 子ども才能マネジメント専門家養成コース	46名
計	79名

“新型コロナ”、今だからこそ高まる社会人の学び直し需要。遠隔授業で沖縄～北海道の受講生が繋がる。

- 小原 愛子**
KOHARA Aiko
准教授
・インクルーシブ教育
・病弱教育
・教育経済学
- 太田 麻美子**
OTA Mamiko
講師
・乳幼児教育
・発達障害教育
・教育経済学
- 韓 昌完**
HAN ChangWan
教授
・パーソナルマネジメント教育
・教育制度・政策
・教育経済学

下関市立大学 News & Topics

新歓Zoomミーティングを開催しました

教授 土屋 敏夫

下関市立大学では、2020年5月1日(金)と5月7日(木)の2回にわたって、「下関市立大学新歓Zoomミーティング」を開催しました。

入学式も行えないまま迎え入れた新生入生たちが、スムーズに遠隔授業に入れるだろうか、それどころか大学に通うこともできない環境の中で大学生生活に馴染んでいけるのだろうかという思いから、教員有志が知恵を出し合い新歓Zoomミーティングが企画されました。

5月1日の第1回ミーティングは、まずは教員と学生が遠隔授業に慣れることを目的に開催しました。教員側からは授業の準備状況や授業の方法について、学生からは授業開始にあたって、授業や学生生活に関して現在不安に思っていることを質問してみるという内容で参加を募りました。当日は、教員約15名、学生約40名と当初予想した以上に多くの参加があり、経済学科と公共マネジメント学科のグループと国際商学科のグループに分かれ、およそ90分間ミーティングを開催しました。経済・公マネグループでは橋誠教授(アジア近代史)が、国商グループでは、田吹香子准教授(アメリカ文学)がホストとなり、自己紹介からはじまって実習や語学、留学などについて学生からも多くのコメントが寄せられました。本格的なZoom会議は初めてという参加者が多い中、どちらのグループも思った以上にスムーズなやりとりが交わされ、ミーティングの後半ではかなり打ち解けた話しを聞くこともできました。

5月7日の第2回ミーティングでは、すでに開始されている履修登録に関して、システムの使い方や初年度に履修する科目について、主に学生同士で情報交換し合うというものでした。松本貴文准教授(農村社会学)がホストとなり、ブレイクアウトルーム(グループに分けて

ディスカッションする部屋)という機能を使って、教員と学生が混ざった少人数のグループに分かれてミーティングが進められました。本学の特徴である少人数対話型教育が早くも実践された形です。グループで話しができるメリットを生かして、活発な情報交換ができました。

大学では現在も授業は全て遠隔で実施されており、教員たちは未だ新生入生たちと直接対話することは叶いません。ただ、授業の様子から感じられることは、学生たちは懸念されたトラブルもなく遠隔授業に入っているようです。学生にとって、あるいは教員にとっても新歓Zoomミーティングでコミュニケーションを取り合い、またスキルの向上をはかったことが良い経験となり、コロナ禍にあっても充実した大学生活を送ることができていると感じます。



国体スキー競技出場について

公共マネジメント学科3年 吉丸 大貴
(佐賀県立鹿島高等学校出身)

2/16~2/19の4日間にわたり富山市・南砺市で開催された冬季国体2020のジャイアントスラローム競技に出場しました。今回は下関に下宿のため、ふるさと出場という形で参加しました。佐賀に住んでいた時は、九州のスキー場や北海道のニセコへ練習に行っていましたが、下宿してからは、なかなか練習できる機会がなく、ランニングや家でのバランストレーニングを行いながら、佐賀県スキー連盟の強化合宿に、できる限り参加しました。実家を出てからも惜しみない協力をしてくださった佐賀県スキー連盟に感謝しています。

今年は暖冬の影響もあり、国体予選や本戦のレース会場の整備が間に合わないなどの問題が多く発生しました。氷点下5度以下の中、半袖姿でコースの整備をするスタッフの皆さんの姿に感動し、富山県の方々のこの大会にかける思いを感じました。レース本番は天候が悪い予報でしたが、自分のスタート直前に快晴になり、広い視野でレースに臨むことができました。昨年までは焦ってレースをしていましたが、選手団の応援の声でリラックスでき、自己新を出せたと思います。多くの方にサポートしていただいていることを再確認できた大会でした。来年も機会があれば参加したいと考えています。



学生ボディビル全国大会出場について

経済学科4年 福田 雄太
(島根県立松江南高等学校出身)

私は昨年10月に行われた全日本学生ボディビル選手権大会に出場しました。ボディビルを始めたのは大学生の間に何か一つ大きな目標を立てて成し遂げたいと考えており、元々筋トレが好きで学生ボディビルの存在を知ったからです。そこで全国大会に出場する事を目標にしました。下宿生でお金に余裕がある訳ではなかったためアルバイトもしていましたが、週6日程度は時間を捻出してトレーニングをしていました。

2年次に力試しとして県大会へ出場しましたが結果は最下位で悔しい思いをしました。しかし、その経験をバネにどうすればより良くなるかを考え、食事やトレーニングを工夫しました。そして3年次に行われた九州学生大会の結果から全国大会出場が叶いました。続けてきた努力が実り、とても嬉しかったです。また競技を行う中でたくさんの人と出会うことができたことが何よりの財産です。

長い大学生の期間に何か一つの事に打ち込んでみるのも面白いかもしれません。



(※写真右が本人)

国際交流

夢を実現させることができた留学

国際商学科3年 川野 七海
(大分県立宇佐高等学校出身)

台湾の銘傳大学に7か月間留学しました。留学期間を振り返ると語学力を高めることができたのは勿論、台湾だけでなく他国から来た外国人の文化や習慣も身をもって体験し、自らの価値観を広げることができたと思います。日本にいただけでは味わえない、はじめは不思議でしかないその国ならではの習慣や外国人のノリにもだんだんと慣れていき、何年も住んでいるかのように溶け込んで、楽しく過ごすことができました。今まで全く環境の異なる場所で生活してきた人と留学先で偶然に出会い、互いの文化に触れながら一緒に生活したことは、なかなか体験できない一生心に残る思い出です。

そして、国際交流センターの方や家族、下関市立大学で出会った外国人留学生が自分の留学をサポートしてくれたからこそ、こうして在学中に成し遂げたかったことをたくさん経験できたと思います。ありがとうございました。



ドイツでの留学を終えて

国際商学科3年 宮田 琴美
(鹿児島県立川内高等学校出身)

中学生の頃、初めてアメリカでホームステイをしてから、留学することが夢だったので、ルートヴィヒスハーフェン経済大学への留学が決まったときは飛び跳ねて喜びました。しかし、出国日が近づくにつれて、10か月も海外で暮らせるのかなという不安でいっぱいになりました。いざ留学生活が始まると、すぐに友達を作ることができて、不安は無くなっていきました。履修した多くの授業でプレゼンテーションがあったため、準備に追われる毎日でした。そんな中でも、友達と一緒に料理を作って食べたり、旅行したり、パーティーを開いたり、充実した生活を送ることができました。

英語圏ではない国での生活は、大変なことも多々ありましたが、様々な面で自分を成長させてくれました。新型コロナウイルスの関係で留学期間は短縮になってしまいましたが、その分、これからもドイツ語、英語を勉強していきたいと思っています。



半年間のトルコ留学

国際商学科3年 小松 真緒
(高知県立安芸高等学校出身)

2019年9月から2020年3月の間、トルコにあるボアジチ大学に留学しました。高校生の時から留学することに憧れがありましたが、具体的な手段が分からないまま大学に入学しました。1年生の春学期に国際交流センターを訪れ、下関市立大学には派遣留学という制度があることを知りました。

そして、2年生の秋学期から3年生の春学期にかけて文明の交差点であるトルコへ留学することを決めました。実際には、現在世界中で猛威を振るっている新型コロナウイルスの影響で半年間のみの期間になってしまいました。

しかし、留学は今までで最も刺激的な経験になりました。まず外国で生活する点、次に全て英語で授業が行われる点、そして初めて外国の友達ができ、どの経験をとっても、大変貴重なものでした。もちろん、楽しいことばかりではありません。困難なことも多くありましたが、留学をして良かったと心の底から思えます。



留学体験記

国際商学科4年 神堀 沙也加
(広島県立広高等学校出身)

留学していた大学はアメリカのカリフォルニア州にあるディアブロ・バレー・カレッジです。英語圏で実践的に言語能力の向上を図ること、また、現地へ赴く事で海外の文化に直接触れ、異文化に対する理解を一層深めることを目的として今回の留学を決意しました。ホームステイ中は、ホストマザーと一緒にテレビを見たり休日には買い物や映画、劇を見に行ったりしました。留学中はたくさんのお会いがあり、その出会いのおかげで出発前には考えつかなかった選択肢にも巡り合うことが出来ました。

また、実際に留学したからこそ発見できた文化の奥深さやもの見方がありました。留学で得られたもの全てがすぐに役立つものではないと思いますが、これから先の考え方に大きな影響を与える素晴らしい体験でした。



2020年度入試実施状況

学科	入試種別	定員	志願者	受験者	合格者	実質倍率	追加合格者	入学者		
経済学科	推薦	全国	28	94	94	28	3.4		28	
		地域	A	29	53	53	29		1.8	
	B									
	一般選抜	前期	A	28	149	135	41	3.3	0	32
			B	28	131	119	48	2.5	0	39
		中期	78	1,336	514	190	2.7	20	68	
		帰国子女	2	0	0	0	-		0	
	社会人	2	0	0	0	-		0		
	外国人留学生	若干名	25	22	4	5.5		2		
	第3年次編入学	8	26	19	8	2.4		7		
国際商学科	推薦	全国	28	84	84	32	2.6		32	
		地域	A	29	40	40	30		1.3	
	B									
	一般選抜	前期	A	28	73	68	40	1.7	0	30
			B	28	116	108	49	2.2	0	35
		中期	78	1,285	497	192	2.6	22	73	
		帰国子女	2	0	0	0	-		0	
	社会人	2	0	0	0	-		0		
	外国人留学生	若干名	55	54	18	3.0		9		
	第3年次編入学	8	21	11	8	1.4		7		
公共マネジメント学科	推薦	全国	8	23	23	11	2.1		11	
		地域	A	8	15	15	10		1.5	
	B									
	一般選抜	前期	A	9	51	46	13	3.5	0	10
			B	9	113	104	17	6.1	0	10
		中期	24	609	247	57	4.3	11	28	
		帰国子女	1	0	0	0	-		0	
	社会人	1	0	0	0	-		0		
	外国人留学生	若干名	6	6	1	6.0		1		
	第3年次編入学	4	28	20	4	5.0		4		

※推薦及び一般選抜前期日程の合格者数には、第2-3志望学科合格者を含みます。※合格者数に、追加合格者は含まれていません。

2020年度合格者出身校

北海道	帯広柏葉、釧路湖陵、クラーク記念国際、札幌北、札幌光星、札幌藻谷	広島県	安芸南、尾道、尾道東、海田、賀茂、神辺旭、祇園北、近畿大学附属 広島(東広島校)、呉宮原、高陽、広陵、山陽女学園高等部、上下、 庄原格致、崇徳、大門、沼田、ノートルダム清心、廿日市、広、広島、 広島井口、広島学院、広島観音、広島工業大学、広島国泰寺、広島 皆実、福山、福山誠之館、福山明王台、府中、舟入、美鈴が丘、基町、 安田女子、安古市、油木
岩手県	釜石	山口県	厚狭、岩国、宇部、宇部商業、宇部中央、宇部フロンティア大学付属 香川、大津緑洋、小野田、小野田工業、華陵、下松、下松工業、慶進、 西京、サビエル、下関(中等教育)、下関商業、下関西、下関南、 新南陽、成進、田部、長府、徳山、豊浦、西市、野田学園、梅光学院、 早鞆、光、響、防府、防府商工、防府西、豊北、美祢青嶺、山口、 山口中央
群馬県	桐生女子、高崎女子	徳島県	小松島、城東、徳島市立、富岡西、富岡東、鳴門、脇町
東京都	三田国際学園	香川県	大手前高松、大手前丸亀、香川誠徳、観音寺第一、三本松、高松、 高松桜井、高松第一、高松西、丸亀
神奈川県	生田、横浜隼人	愛媛県	今治北、今治西、宇和島東、西条、済美、東温、新田青雲(中等教育)、 野村、松山北、松山西(中等教育)、松山南、南宇和、八幡浜
富山県	砺波	高知県	安芸、高知追手前、高知小津、高知商業、土佐塾
石川県	七尾	福岡県	育徳館、香椎、春日、香丘丘、嘉穂、九州国際大学付属、九州産業 大学付属九州、九州産業大学付属九州産業、仰星学園、近畿大学 附属福岡、鞍手、久留米、久留米商業、敬愛、小倉、小倉商業、 小倉西、小倉南、精華女子、西南学院、西南女学院、青豊、田川、 筑紫、筑紫台、筑紫中央、筑前、筑陽学園、伝習館、東筑、常磐、戸畑、 中間、西日本短期大学附属、東筑紫学園、東福岡、福岡中央、福翔、 北筑、京都、宗像、八幡、八幡南、八女、八女学院
福井県	武生、武生東、若狭	佐賀県	伊万里、小城、鹿島、唐津東、佐賀北、武雄、致遠館、三養基
長野県	飯田風越	長崎県	壱岐、諫早、五島、佐世保北、佐世保西、佐世保南、聖和女子学院、 鎮西学院、長崎北、長崎商業、長崎南山、長崎西、長崎東、長崎 北陽台、長崎南、松浦
岐阜県	大垣西、可児、加納、岐山、岐阜東、帝京大学可児、長良、美濃加茂	熊本県	天草、鹿本、熊本、熊本北、熊本マリスト学園、済々黌、第一、第二、 玉名、八代、八代清流
静岡県	磐田西、御殿場南、静岡西、静岡東、島田、聖隷クリストファー、榛原、 藤枝明誠、焼津中央	大分県	宇佐、臼杵、大分雄城台、大分鶴崎、大分東明、大分豊府、大分舞鶴、 大分南、杵築、玖珠美山、佐伯鶴城、竹田、中津北、中津南、日本 文理大学附属、日田、別府鶴見丘、由布
愛知県	愛知啓成、旭野、安城東、大府、大府東、岡崎、岡崎東、刈谷北、五条、 瑞陵、東海、豊田、豊田南、西尾東、御津	宮崎県	小林、高鍋、日南、延岡、日向、日向学院、都城西、宮崎大宮、宮崎 第一、宮崎西、宮崎日本大学、宮崎南
三重県	宇治山田、尾鷲、川越、桑名、桑名西、津西、津東、名張青峰、四日市南	鹿児島県	伊集院、出水、指宿、大島、鹿児島、鹿児島中央、鹿児島南、加治木、 加世田、鹿屋、川辺、甲南、国分、樟南、川内、武岡台
滋賀県	膳所、虎姫	沖縄県	向陽、首里、那覇国際、普天間
京都府	綾部、大谷、京都成章、京都橘、城南菱創、菟道、鳥羽、西城陽、西舞鶴、 東山、福知山、福知山成美、峰山、山城		
大阪府	生野、池田、和泉、上宮、上宮太子、追手門学院大手前、大阪桐蔭、 開明、春日丘、近畿大学附属、常翔学園、常翔啓光学園、城南学園、 清風、浪速、三島、箕面自由学園、桃山学院、八尾、早稲田摂陵		
兵庫県	相生、明石、明石城西、網干、伊丹(市立)、小野、加古川北、加古川西、 加古川東、川西北陵、川西緑台、近畿大学附属豊岡、神戸星城、神戸大学 附属(中等教育)、琴丘、三田祥雲館、淳心学院、須磨学園、須磨東、 蒼開、第一学院(養父校)、宝塚北、宝塚西、滝川、龍野、豊岡、西宮東、 東播磨、姫路、姫路東、兵庫県立大学附属、葦合、北条、北摂三田、舞子、 御影、夢野台、八鹿		
奈良県	一条、帝塚山、奈良北、西大和学園		
和歌山県	開智、向陽、星林、耐久、田辺、和歌山信愛		
鳥取県	倉吉東、鳥取西、鳥取東、八頭、湯梨浜学園、米子西、米子東		
島根県	飯南、出雲、隠岐島前、江津、大社、浜田、平田、松江北、松江東、松江南、 三刀屋		
岡山県	井原、岡山、岡山朝日、岡山一宮、岡山学芸館、岡山城東、岡山操山、岡山 白陵、岡山芳泉、笠岡、勝山、倉敷天城、倉敷青陵、倉敷南、西大寺、就実、 総社、玉島(県立)、玉野、玉野光南、津山、明誠学院		

2020年度予算

(単位:百万円)

	区 分	金 額
収 入	運営費交付金	244
	授業料等	1,046
	入学金	116
	入学検定料等	65
	事業収入等	32
	寄附金	6
	補助金	0
	前中期目標期間繰越積立金取崩額	136
	計	1,645
支 出	一般管理費	330
	人件費	1,138
	教育経費	164
	研究経費	45
	教育支援経費(図書館)	44
	計	1,721

2020年3月～7月行事

- 3月 8日 一般選抜(中期日程)
- 25日 卒業式(中止)
- 4月 新入生プレシメントテスト(一部代替webテスト)
- 在学生オリエンテーション(中止・web資料up)
- 健康診断(秋学期へ延期)
- 入学式(中止)
- 新入生保護者説明会(中止)
- 大学院新入生オリエンテーション(中止)
- 履修登録事前エントリー(4/28～4/30)
- 新入生オリエンテーション(資料配布(対面・郵送))
- 履修登録開始(5/7～5/13へ変更)
- 春学期授業準備(5/11～5/15へ変更)
- 春学期授業開始(5/18～へ変更)
- 27日 前期授業料納入期限
- 5月 履修登録取消期間(6/8～6/12へ変更)
- 特待生表彰式(郵送)
- 6月 1日 開学記念日
- 6日 附属リカレント教育センター開講
- 7月 2日 高校教員対象入試説明会(Zoomによるオンライン開催)

◎ご意見・ご感想をお持ちの方は、アンケートにご協力をお願いします。今後の広報活動に役立てるよう努力いたします。以下のQRコードを読み取ってからアンケートにお答えください。

https://www.shimonoseki-cu.ac.jp/form/koho_mail.php



オープンキャンパス2020の開催中止について

8～9月に開催を予定していました「オープンキャンパス2020」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、全て中止とさせていただきます。

参加を楽しみにされていた皆さまには大変申し訳ございませんが、どうかご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

なお、実施を予定していたプログラムについては、下記のとおり対応いたします。

●「大学紹介」「入試説明」「小論文対策講座」

→8月上旬から順次動画を配信予定

●「個別相談」

→オンラインやメールでの相談を受付中



詳細は、大学HPよりご確認ください。

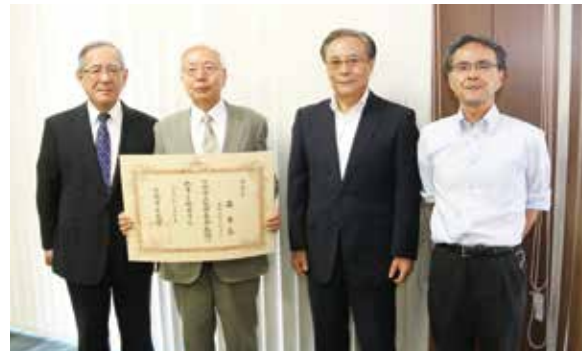
インターネット出願のご案内

下関市立大学では、受験生の利便性を高めるために、全選抜においてインターネット出願を導入します。導入に伴い、従来の紙での出願受付は行いません。

名誉教授称号授与式を行いました

2020年6月23日(火)、本学学長室において本学名誉教授称号授与式を行い、本年3月31日付けで退職された森幸弘氏に名誉教授の称号が授与されました。

長きに渡り本学の教育や運営にご尽力をいただき誠にありがとうございました。



【全国大会出場】

■準硬式野球部

第37回全日本大学9ブロック対抗準硬式野球大会出場(2019年11月)

■少林寺拳法部

2019年少林寺拳法全国大会出場(2019年11月)



準硬式野球部



少林寺拳法部